



「数字で見る鳥取県倉吉市のインバウンド」

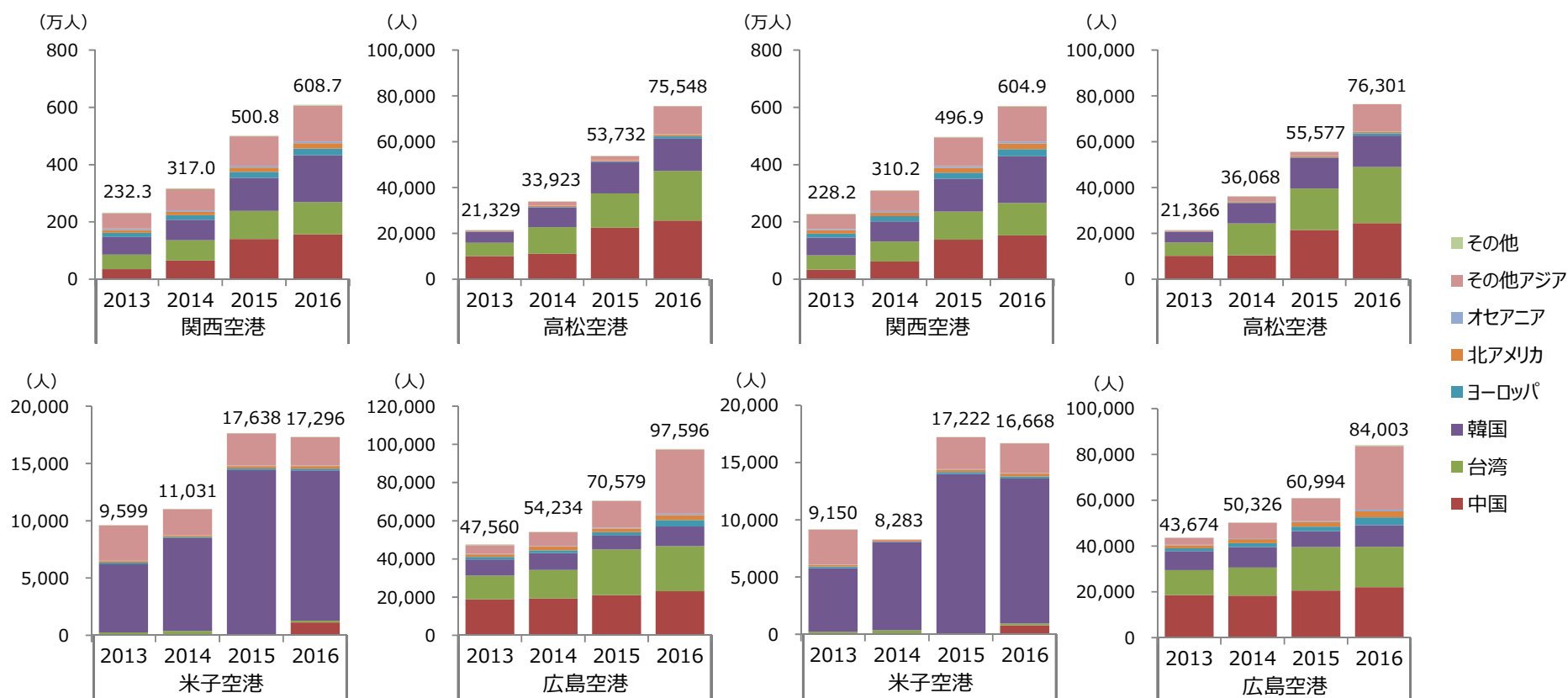


空港別／国・地域別訪日旅行者数（1）

- ◆ 当圏域につながる玄関口としての空港は、関西空港に加え、近年東アジアへLCC（格安航空会社）が多く就航している地方空港として高松空港、米子空港、広島空港がある。
- ◆ 米子空港以外はここ4年間一貫して入国者・出国者ともに増加している。
- ◆ 関西空港は世界中からの便が就航しているが、高松・広島空港は中国と台湾、米子空港は韓国の占める割合が高い。

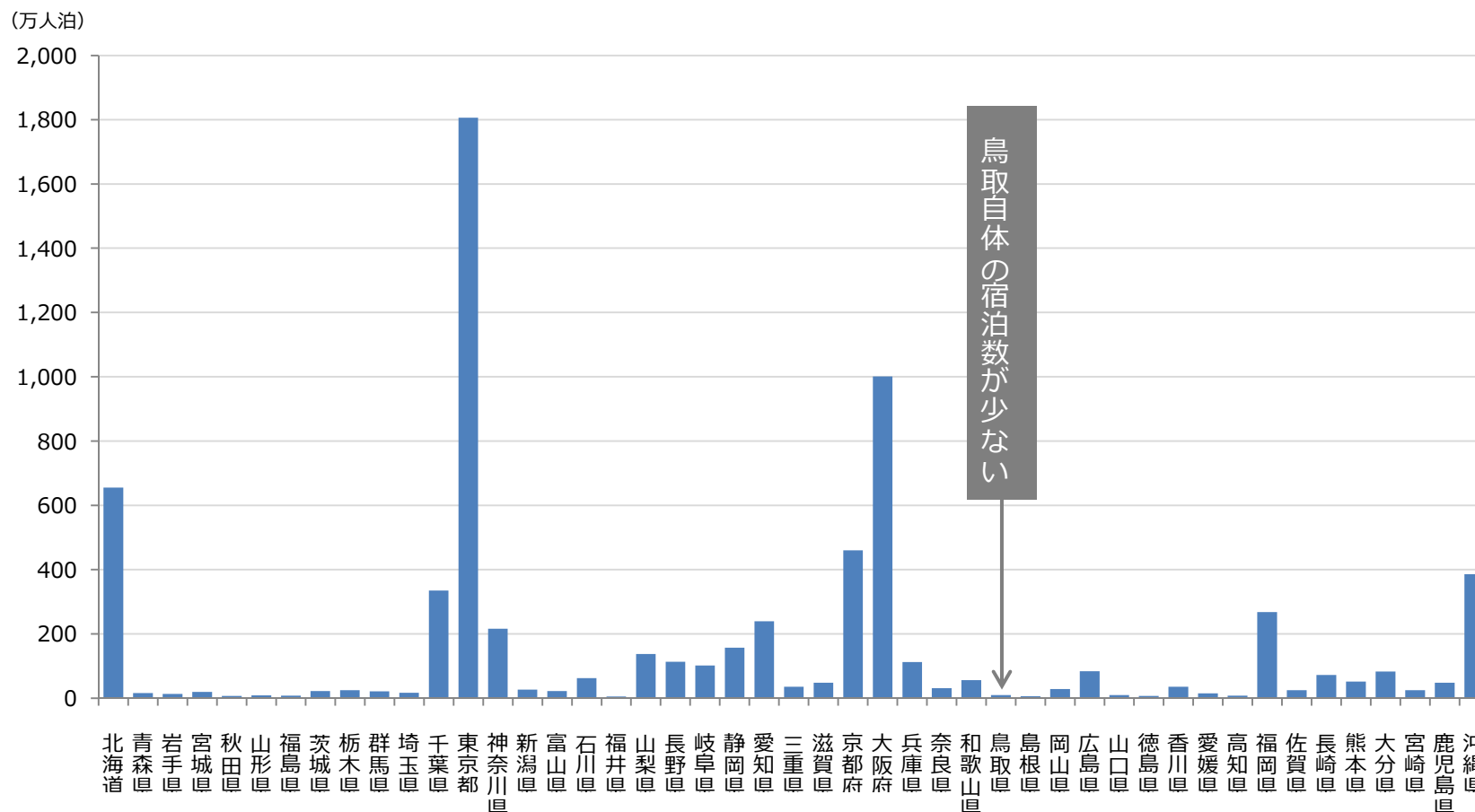
空港別 国・地域別入国者数

空港別 国・地域別出国者数



県別外国人宿泊数

◆ 中国四国エリアは全体的に外国人の宿泊数は少なく、大阪、京都からの誘客がポイント。

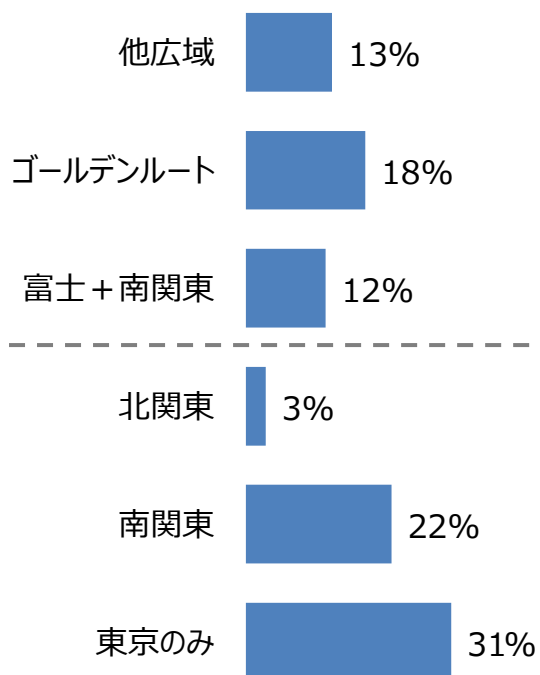


※2016年 延宿泊者数（1人が2泊した場合2人とカウント）

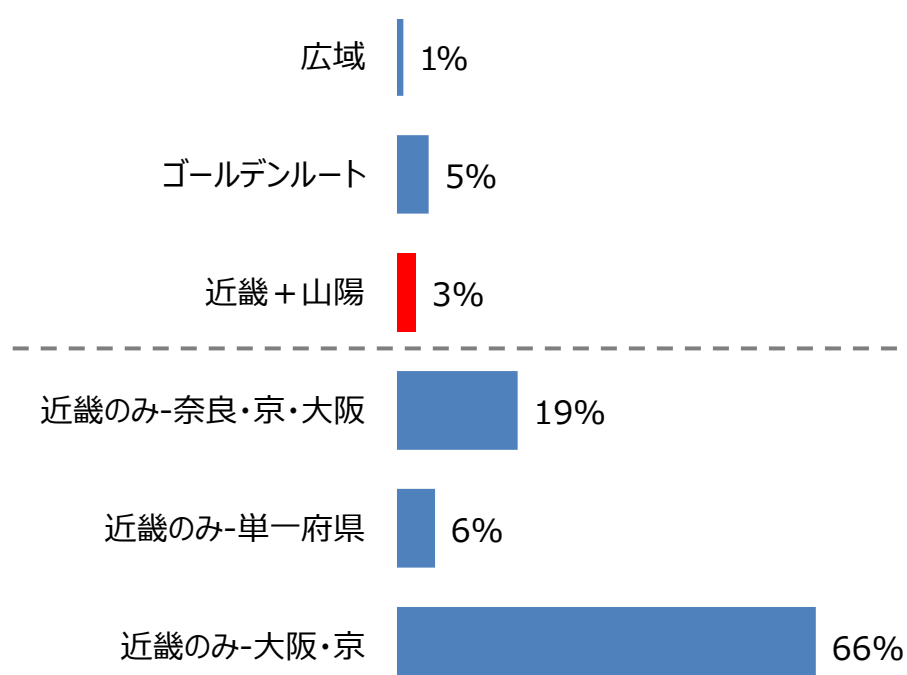
首都圏、及び関西で入国した訪日客の訪問地

◆ 関西空港で入出国した旅行者の66%が大阪・京都のみ訪問し、近畿+山陽はわずか3%。

首都圏2空港で入出国した旅行者の訪問地



関西空港で入出国した旅行者の訪問地

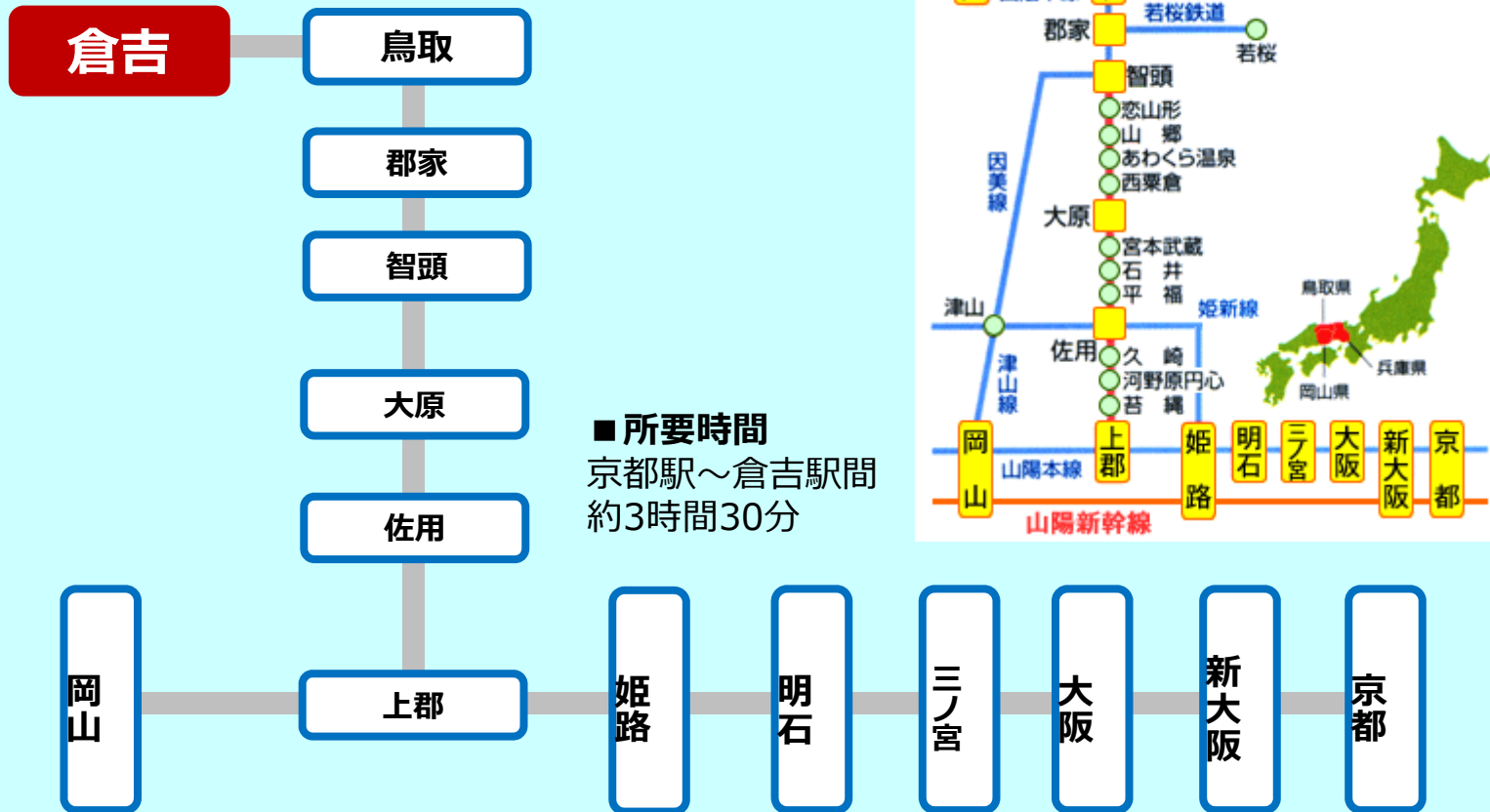


※観光庁「訪日外国人消費動向調査」2014年のデータを用いて首都圏2空港、及び関西空港で入出国した旅行者がどのような地域を周遊したか分析したもの。
 ゴールデンルートとは首都圏と関西の両方を訪問するパターンを指す。

倉吉市の誘客ルート

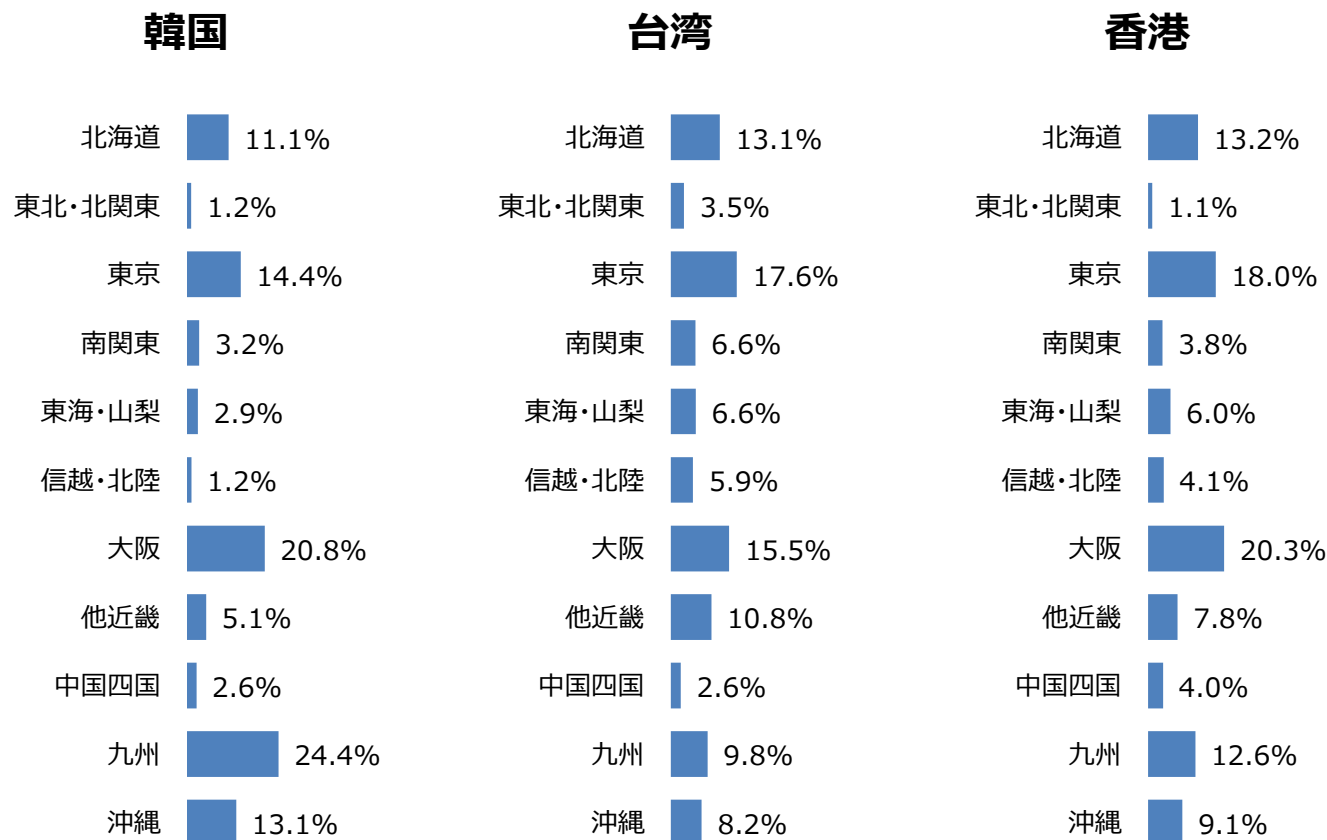
- ◆ 主なインバウンド客の誘客ルートとしては、京都・大阪から直通の「特急スーパーはくと」によるものが主に想定される。

特急スーパーはくと



主な国籍別にみた外国人の宿泊地の分布

- ◆ 倉吉に来訪していると考えられる主な国籍の旅行者の宿泊地分布をみると、韓国は西日本に偏在しており（近距離性）、台湾と香港は逆に分散傾向が強い（リピーターが多いため）。

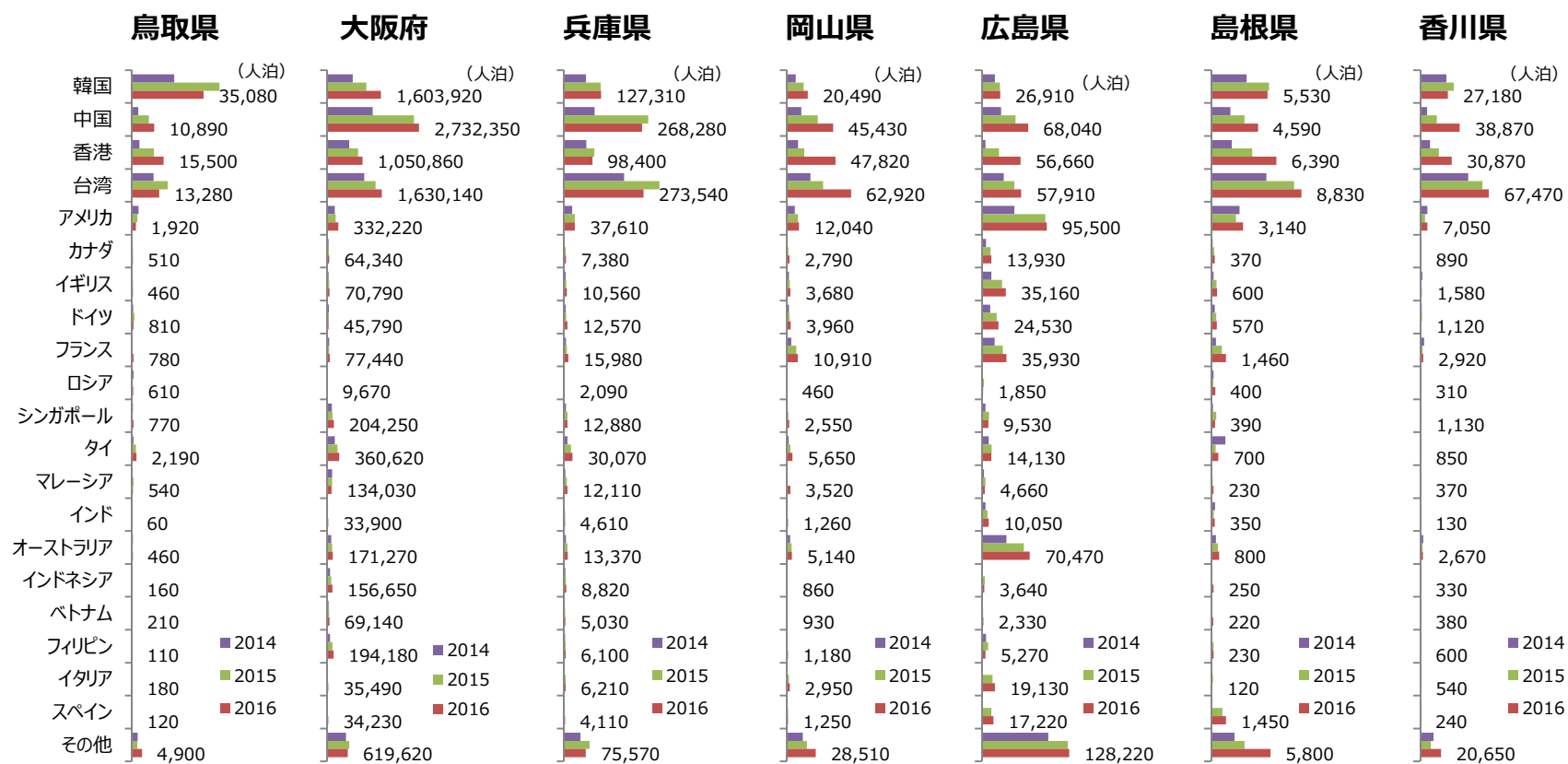


※2015年11月～2016年10月の数値

鳥取県及び近隣府県のインバウンド概況（1）

- ◆ 鳥取県内の宿泊施設に2016年に宿泊した外国人の国籍は、韓国が3万5千人泊で最も多く、香港が1万6千人泊、台湾が1万3千人泊、中国が1万1千人泊で続く。
- ◆ 韓国と台湾は2015年に増加したが、2016年は減少している。
- ◆ 近隣府県では、大阪府は中国、それ以外の県はいずれも台湾が最も多い。

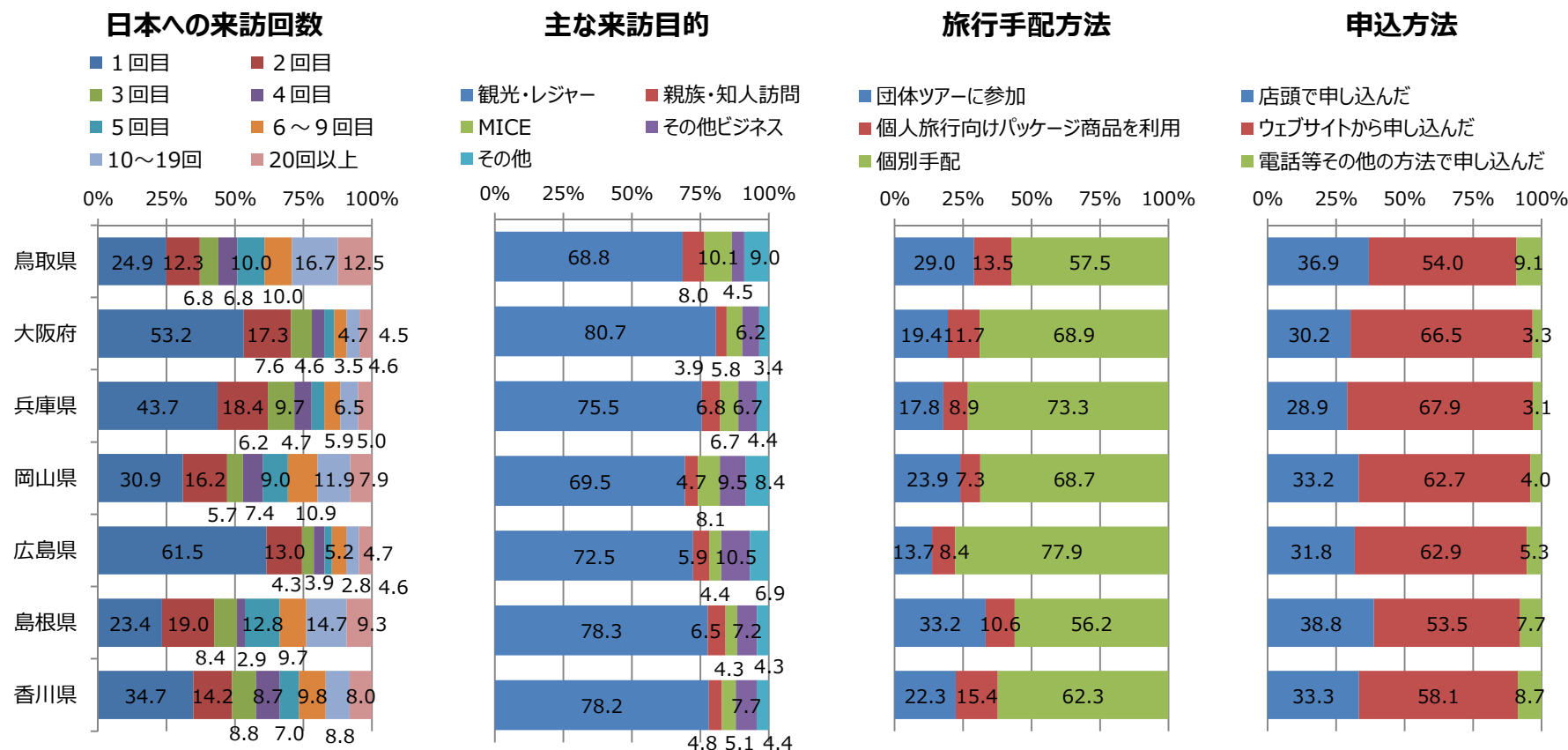
国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数



※数値は2016年
※イタリア、スペインは2015年から追加

鳥取県及び近隣府県のインバウンド概況（２）

- ◆ 鳥取県及び近隣府県を訪問した外国人の来日回数をみると、大阪府、広島県といった訪日客が多い府県は初来日が半数を超えるが、鳥取県、島根県、岡山県などは2回目以降のリピーターが多くなっている。
- ◆ 主な来訪目的は、「観光・レジャー」がおおむね7割以上を占める。
- ◆ 訪日旅行の手配方法は、全ての府県で「個別手配」が最も多いが、鳥取県と島根県は「団体ツアー」が3割程度と比較的多い。
- ◆ 申込方法は、鳥取県と島根県は「ウェブサイト」が比較的低く、「店頭」での申し込みが多くなっている。

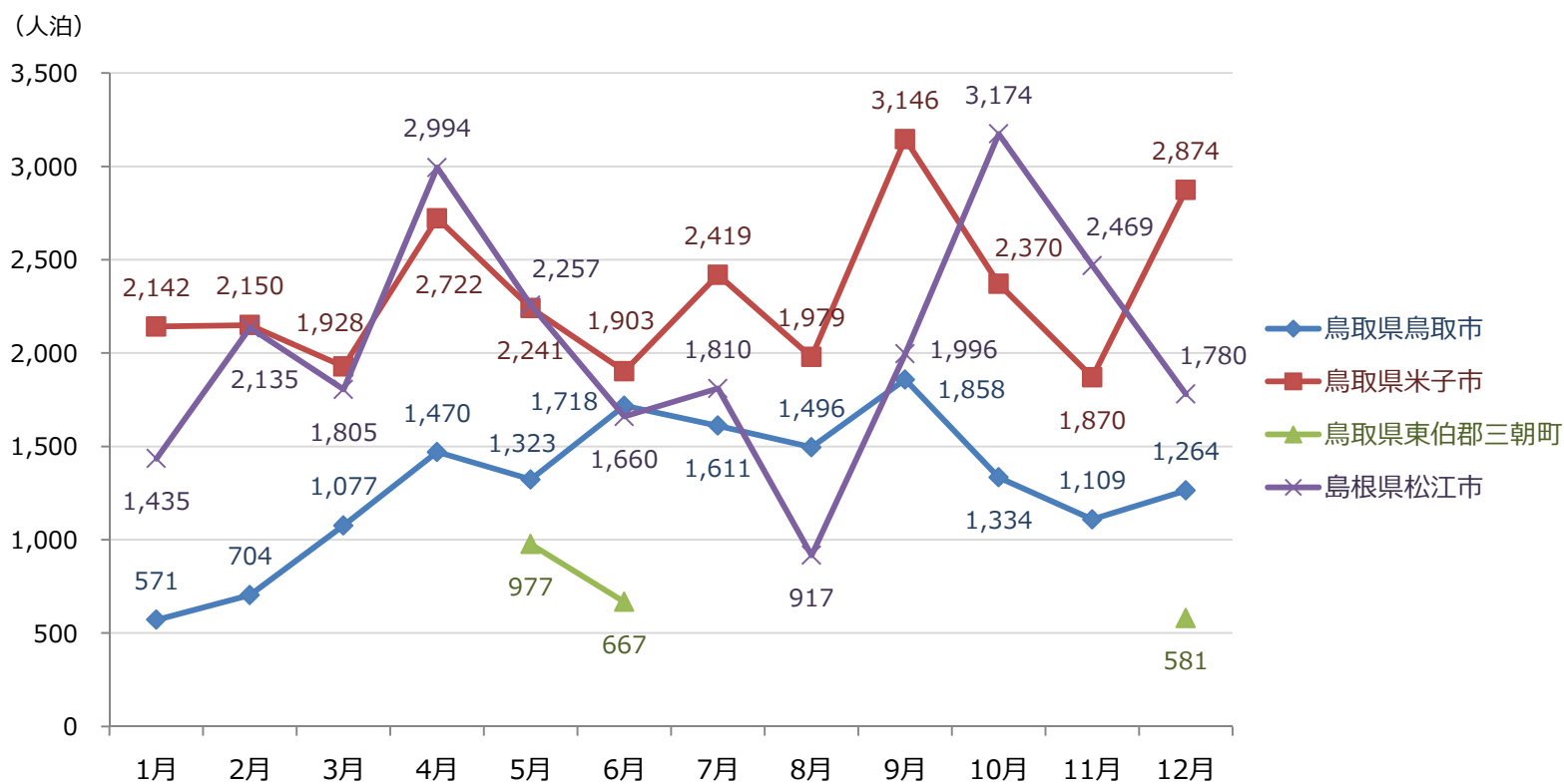


※「MICE」は「インセンティブツアー」「展示会・見本市」「国際会議」「企業ミーティング」、「その他ビジネス」は「研修」「その他ビジネス」、「その他」は「観光・レジャー」「親族・知人訪問」及び左記以外の計

各自治体の月別インバウンド概況

- ◆ 外国人宿泊客の月ごとの動向をみると、鳥取市は1月の宿泊者が最も少なく、そこから徐々に増加し、9月が最も多かった。
- ◆ 米子市は4・9・12月が多く、3・6・8・11月は比較的少なかった。
- ◆ 松江市は4・10月が多く、8月は非常に少なく、月による変動が大きい。

施設所在地別外国人延べ宿泊者数（2016年）



※三朝町は5・6・12月のみデータあり